

「こどもの歌」リズム分類の試み

—保育者養成の手掛かりのために—

Attempt of rhythm classification of "Children's Song"
For clues of childcare person training course

飯泉 祐美子(帝京科学大学)

Yumiko IIZUMI

(キーワード)

保育者養成 音楽教育 ピアノ教育

要旨

(1)問題提起

保育者養成課程において「保育技術」であるピアノ弾き歌い演奏技術は必須のものである。しかし、入学する学生の実態は、それまで音楽に対し深い関心を持ち、ピアノや音楽を深く学んだ経験を持った者は少なく、どちらかといえば養成課程に入学し、必要に迫られて音楽の学習やピアノの学習をスタートする学生が大半である。とはいえ、音楽を全般的にとらえて「好き嫌い」や「興味関心」と考えると、その数字が上がることは言うまでもなく、街中ではイヤホンで音楽を聴きながら歩いている姿が目につく。つまり、「音楽を学ぶ」ということはその方法次第で効果が上がるのではないかと考える。

そのため、これまで保育者・教員養成課程におけるピアノ弾き歌い教育について効果の上がる指導をめざし、研究を進めてきた。

本研究はその一端である。

(2)「リズム」の分類に至る経緯

これまで、養成課程での音楽の学習、特に「弾き歌い」に関して、一般的なピアノ学習のスタイルではなく、早期の段階から達成感を味わえる方法ですすめるのが良いのではないかと考察してきた。

そこで、「とにかく弾きながら歌うことができる」ということを最優先した。すると、「模倣」が有効で

あり、効果的であるということが分かった。なぜなら、すぐさま「弾き歌い」ができることによって達成感や成就感を味わうことが出来、さらに次の学習の潤滑油になるからである。ここでいう「模倣」とは単なる「模倣」ではなく、いわゆる「型」としての「模倣」である。

つまり指導者が楽曲の要素をとらえ、「何を模倣させるのか」、「今必要な演奏技術は何でありどこを模倣させるべきなのか」その見極めが最も重要であり、適宜精査して助言、指導することが重要となる。

そのため、これまで「演奏技能」「フィンガリング」「スタートポジション」などを探り「模倣」の一助を探ってきたが、音楽を形づくっている要素の「リズム」はその同種の「型」のパターンを「模倣」することで比較的効果が上がりやすいことがこれまでの指導経験上からわかってきた。

そこで本研究では指導者のための指導の手掛かりとした「リズム」を視点に分類を試みた。

(3)分類対象

現在保育の現場で使用される、また、養成校の教材としても取り上げられる楽曲からオーソドックスな楽曲を選曲し、分類を実施した。

(4)分類方法

分類の結果 考察については当日発表する。